

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議の場や新人研修の際に説明し、個々の理解を深め日々のケアに活かせるよう努めている。	法人全体の理念をもとに事業所独自の理念を掲げ、理念の実践ができるよう、玄関・共有スペースに理念を掲示し、職員会議や新人研修でも確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に向けた広報誌を定期的に発行し、情報を発信している。地域の祭りの子供みこしを見に行ったり、地域の防災訓練に参加している。地域の方への積極的な挨拶を心掛けふれあいを大切にしている。	地域に向けた広報誌を発行し、情報を発信しています。また、地域の祭りの際は子供神輿に敷地内に入ってもらったり、地域の防災訓練にも参加したり、中学校の体育祭に見学に出かける等、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	地域への広報の回覧についても、定期的にできるように職員間で検討されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌の発行により、地域へグループホームという施設を知ってもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、事業所の近況を報告したり、委員の方々からの質問、意見、要望を聞きサービス提供に反映するよう努めている。また、相談、協力を得ている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会長やご家族代表、市担当者や地域包括支援センター職員から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者より運営推進委委員として会議に参加いただき意見を求めている。	市の担当者、地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただき、アドバイス頂いているほか、困難事例の相談や不明な点について連絡を取り連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修での身体拘束への認識や理解を深め、身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束を行わない方針のもと、玄関の施錠も夜間のみとし、法人にて身体拘束についての研修を行い周知徹底するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修での虐待防止への認識や理解を深め、職員への周知徹底により虐待予防に努めている。	身体拘束研修と同じく、法人にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で権利擁護について勉強会を開き、制度に対する理解や知識の習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書や事業所の説明を行い、入居者、家族からの質問には丁寧に答える様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡の際などに気がついたことや要望はないか確認している。また、敬老会は家族からも参加してもらい、家族同士の交流や事業所への要望の機会を設けている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気がついたことや要望はないか確認しています。また、敬老会やお花見にもご家族にも参加していただき、ご家族との交流を図り意見が出易くされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回は個人面談を実施し、個人の要望を聞いている。日々の業務の中で職員の改善提案があれば、職員会議の場で検討している。	年一回は個人面談を行い、人事異動の要望も確認する等、個人の要望や悩みを聞いています。また、日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の職員会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回の人事考課により、個々の評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部研修への参加をすすめている。必要に応じた事業所内での研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の同事業所で、定期的に困難事例検討会を開催し、意見交換や交流の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談や契約時に本人の不安や要望を聴き取り、職員間での情報の共有化を図り不安が少しでも解消されるよう努めている。新しい環境での生活に慣れるまで、こまめな面会など家族からの協力も得るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの困っていたことや不安を聴き、家族の要望が本人の生活に反映されるよう努めている。こまめに本人の状態を伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いや要望、その時の状態を確認し、十分な話し合いを行い双方納得のもと必要なサービスへと繋げるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯たたみ等出来る事には積極的に参加して貰えるよう声かけを行い、また、昔より馴染みのある調理方法や味付けをして貰っている。また、畑作業では協働しながら生活できる環境づくりを心がけている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さな事でも報告するよう心がけている。家族の考えや要望等を聞き入れる中で家族の負担にならない範囲で協力を求め共に本人を支えていく体制作りにも努めている。	事業所広報を送付やご利用者に応じて近況報告もお送りしています。日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	ご家族への事業所広報の送付についても、定期的に行えるように職員間で検討されることを期待します。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から付き合いのある主治医や美容院等を利用している。また、外出等は本人と相談し行きたい場所を聴き取り、行き先を決めている。	ご家族の協力も得て、馴染みの美容室へ出かけたり、スーパーへ買い物に出かけたりと今までの関係継続支援に努めています。また、職員の異動についても事業所広報にてご家族に説明し、ご理解をいただけるように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の関係を見極め、一人ひとりが思いやれるような雰囲気づくりを心がけ、トラブルが起こらないよう職員が仲介役となり支援している。現在は入居者同士助け合う場面も見られ良い関係が築かれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣りの事業所へ移られた後も、時々顔を見に職員や入居者と出かけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や言動に気を配り、思いや要求を感じ取れるよう努めている。常に傾聴の姿勢を大切にしている。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員会議の場で連絡され、ケアプランの検討に活かされています。サービス担当者会議にはご本人・ご家族にも参加していただき、要望を確認しています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より聞き取りを行ったり、実際に行なって頂く事で、得意、不得意や好み等情報収集に努めている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。6ヶ月に1度はアセスメントを行い、定期的な情報の更新も行っています。	全てのご利用者に対しての暮らしの情報シートを整備し、職員間で情報の共有をより進められることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者を中心に、個々の状態の把握に努めている。職員への周知は、申し送りノートや職員会議で情報の共有化を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に思いや要望を聴き取りケアプランに繋げている。必要に応じ、看護師や栄養士、理学療法士等の専門職にも意見を求め、状態変化に応じた介護計画を作成している。	サービス担当者会議にはご本人、ご家族にも参加していただきケアプランの検討を行っています。居室担当者が他の職員の意見も確認し、毎月モニタリングを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアプラン実施時の様子等、職員が把握できるよう個人記録に記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の本人、家族の状況に合わせ、何が必要であるか、どうするのがよいかを考え対応している。要望、要求について、早急に検討と対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会にて行政や地域包括支援センターより参加頂き、情報交換や協力体制を築いている。屋外へ出た際、近隣住民との挨拶や会話、祭りへの参加など交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医や希望の病院への受診(家族付き添い)を基本とし、必要時には、管理者や看護師が同行、電話などにて情報提供し適切な治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員や看護師が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめたサマリーを医師に渡すなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化でも看護師に伝え、指示を仰いでいる。カンファレンスや会議に参加してもらい、個々の状況を把握できる体制をとっている。必要時、家族への説明や主治医との連絡・調整を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の状態を出来るだけ詳しく提供し安心して治療出来るようにしている。入院中は面会や家族への連絡等により回復状況を把握し早期退院に向け、カンファレンス等の機会を持ち病院関係者と協力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を普段より確認し、本人にとって最良の支援が出来るよう主治医、看護師、栄養士等関係者と連携をとりながら支援している。重度化したときにはカンファレンスの開催により、再度家族に要望(意思)を聞き、事業所として出来る事を提示し、双方の意思確認を行なっている。	契約段階で管理者はホームの方針を伝えていきます。ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医や看護師とも連携し支援しています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署からの普通救命講習や応急手当の研修を実施している。(臨時の研修もあり)又、緊急連絡網や救急時の対応法(通報含め)も話し合っている。	毎年1回は消防署職員より普通救命講習を受けており、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの作成とそれに添った総合避難訓練や単独の避難訓練、駆けつけ訓練の実施、非常食や非常持ち出し袋を準備している。また、町内会の避難訓練への参加も行っている。	隣接する特別養護老人ホームと合同で日中・夜間を想定した避難訓練を行なっています。町内会の避難訓練にも参加しているほか、前回の課題であったグループホーム単独での夜間を想定した駆けつけ訓練も行われていました。	避難訓練には地域の方にも参加をお願いし、災害時に地域の方にも協力して頂ける体制を検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴、病歴を理解し、人格を重視したケアを心がけている。言葉かけや対応が慣れ合いとならないよう心がけ対応している。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報への写真の掲載についてもすべてのご利用者に同意を得ました。	広報への写真の掲載に関する同意書については、新しく入居されたご利用者についても頂けるように検討されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に寄り添う時間の中で、本人の気持ちや思い希望を大切にし、受け止めるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちを第一に考え、希望に添えるようその人らしい生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアスタイルや服装はそのひとの好みを優先し、生き活きとした気持ちで生活が送れるよう、おしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューも利用者の意見を聞きながら作成し、昔行なっていた方には、調理の下準備や出来る作業のお手伝いをいただいている。食事の際も、味付けなど会話の中に話題となっている。	ご利用者の能力に応じて調理や後片付けも行ってもらっています。また、事業所の畑でもきゅうりやなすなどの野菜をつくっており、収穫はご利用者の楽しみとなっています。ご利用者の誕生日には希望のメニューを確認し提供したり、外食に出かける等の支援も行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限が必要な方や咀嚼機能の低下に合わせた刻み方での提供など個々に合わせた食べやすい形態での提供を行なっている。 水分も多めに摂取して頂くよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがい、うがいができない方にはガーゼでの拭き取りを行い、個々に合わせた口腔ケアを行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄リズムに合わせてトイレへの声かけ、誘導を行なっている。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。トイレも4箇所あり、職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、本人の排泄リズムの把握に努め、個々の便秘時の対応策に沿い対応している。多目の水分摂取や乳製品や食物繊維の多い食材を使ったメニューの作成を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望に添った入浴時間に、提供している。皮膚疾患等ある方については、シャワー浴や入浴の回数を増やし対応している。	ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間を多く設け、夜間はよく休んで頂けるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後変更があった場合は、職員周知のため業務日誌等で申し送りを行なっている。服薬介助時も、確実に服薬されているか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある生活を送って頂けるよう、個々に合わせた役割の提供や気分転換の機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物や季節に合わせた行事などを実施している。また、本人の希望を取り入れた外出や外食の機会を設けている。家族へ働きかけ可能であれば、買い物や自宅へ外出される場合もある。	ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、季節に合わせたお花見や紫陽花見学などのイベントとしての外出も実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在現金を所持されている入居者はいない。行事での外出の際家族より預かった現金で、買い物や飲食を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を掛けることはないが、家族より電話があった際は本人に代わり、電話での会話が出来るよう支援している。耳が遠い方には、職員が会話の仲介を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾品や生花や植物を飾り、季節感ある生活空間、心地よい環境となるよう心掛けている。	リビングは広々として吹き抜けの天井が開放感を出しています。全体的に木材を取り入れた温かみのある内装になっており、飾られている写真や装飾品も季節に合わせてあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を畳の居間とフローリングの食堂とに分けてあることで、くつろぐ場と趣味活動を行なう場と意思思いに過ごすことが出来るよう配慮している。居間でテレビを見たり、フロアで新聞をみたりとひとりで過ごしている入居者もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や装飾品、家族の写真の持込により、本人が心地良い環境となるよう家族の協力を得ながら工夫している。	居室には、ベッドやテレビ、コタツなど、自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかり自ら行けるよう、トイレの戸に明記したり廊下に矢印で案内している。		